

活動名	団体名	牟礼郷土誌同好会
小中学生に郷土の収集民俗資料と歴史資料の体験学習	地域	山口県防府市
	代表者	牟礼郷土誌同好会会長 大田 和子
	支援金額	15万円
活動概要	<p>○『ふるさと牟礼』9号発行 500部 牟礼地域内の小学校2校、中学校1校に配布</p> <p>○米作り体験 藁、餅米は体験学習に使う。</p> <p>○農具を使った体験学習、 ○昔の生活道具を使って体験学習</p> <p>○昔の生活道具 展示説明、 ○放課後子ども教室</p> <p>○江戸を体験してみよう 囲炉裏の周りに坐って話をしよう</p> <p>○講演会 講座開催 牟礼の歴史学習 文化財資料館訪問</p> <p>○歴史の道 山陽道を歩く、 ○昔の遊び体験</p> <p>○だいがらで餅をついてみよう</p> <p>○牟礼郷土誌同好会会員が中心になって指導しました。</p> <p>◆実施時期 2014年4月1日～2015年3月31日 牟礼小学校、牟礼南小学校、山陽道(牟礼～富海)</p> <p>◆参加人数 ○牟礼小 米づくり体験 参加数 延 280人 ○牟礼小 農業・文化体験 児童生徒 90名 ○牟礼小 昔の道具体験 80名 ○牟礼小 昔の遊び体験 85名 土曜授業他 90名 ○牟礼南小 67名 ○牟礼小 85名 山陽道歩く会 150名 その他 講演会他 210名 参加総数 児童生徒 716人 牟礼郷土誌同好会 人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:延 約 570名</p>	



民俗資料

囲炉裏を牟礼小学校多目的ホール内に実現。囲炉裏を囲み、牟礼郷土誌同好会会員の説明を聞く牟礼小、児童生徒



民俗資料「だいがら」による餅つき。

石臼のなかの餅をひっくり返すときには、餅をひっくり返す人と「だいがら」を踏む人とうまく調子を合わせないと餅がうまくつけませんよ。牟礼小、児童生徒も牟礼郷土誌同好会会員の指示に従い、だいがらを踏んでいます。



牟礼小学校に保管されている、民俗資料を展示し、児童生徒は、牟礼郷土誌同好会会員の説明を聞き、学習する。展示したのは、箱膳、行灯、囲炉裏、洗濯たらい、ロウソク立て等



洗濯板を使って、靴下を洗う。丁寧に固形石鹸でこする子どもたち、たまには手でごじごじ洗ってみましょう。昔の洗濯たらいは、民俗資料として展示はしても児童の手洗いには重いですよ。

◆実施に伴う効果

- ◇『ふるさと牟禮』の編集も今までのふるさとの歴史案内書にくらべ親しみやすい編集にしてある。
- ◇学校の先生にも編集に加わってもらい、表紙絵は、児童生徒に書いてもらったが、上手さに感動している。
- ◇民俗資料がどういふふうに使われていたか、説明表示版の整備をしたことで、倉庫にしまわれっぱなしになっていたものを、はじめて展示が可能になったことで、現代っ子が関心を持ち、先生にも学習の役に立つと感謝され、展示を今後も継続してくださいと期待されている。
- ◇囲炉裏を置く場所づくりには苦労したが、囲炉裏のそばで集まって団欒の疑似体験ができたのはよかった。

◆苦労した点

- ◇小学生に解りやすくという点で編集に時間を要したこと。
- ◇牟礼小学校の校長に編集委員入ってもらったことで、表紙に牟礼小学校児童生徒の絵でかざることができたこと。また、牟礼地域の牟礼中学校、牟礼南小学校の関心と呼び、学校図書館に本を寄贈させてもらうことができたこと。ボランティアで講師をしてくださいと依頼があったこと。
- ◇まず、民俗資料の保存について文化財課の学芸員を講師に迎え、学習会を開く。
- ◇文化財資料館を訪れ、学芸員に展示説明板作成の実際を展示を見ながら指導してもらおう。
- ◇初めてのことであるので、なんとか展示板を作成。児童生徒が展示をみて理解できない部分は、牟礼郷土誌同好会会員が説明する。社会科学習の授業として活用してもらい役だってよかったと思う。
- ◇囲炉裏を置くのに天井から吊るす自在鉤を吊るすのに大きな木を組み合わせてなんとか吊るしたが子どもたちには大好評、今時、民家とか、趣のある食事処でもない限り見ることはできないんだから、牟礼郷土誌同好会会員の熱意を子どもたちに子どもたちは感動したようである。

◆今後の課題・発展の方向性

- 牟礼郷土誌同好会は、平成2年5月に「文化庁文化財愛護活動推進方策」の研究委嘱を受け、民俗資料の収集を続けてきました。民俗資料は失ったらお金を出して作るということではできません。
- この民俗資料をどうして保存し活用するか、牟礼地域で守るべき財産です。みんなで考えないといけない問題だと思いますが、今回のマツダ支援助成は、その機会作りになったことと思います。
- 牟礼小学校では、学校の近くの田んぼを借りて餅米づくりをしています。
- 種まき、田植え、夏休みには、米の成長の観察、11月には農具を使った体験学習では縄ない、千歯、足踏回転脱穀機、こも編みなど餅米の藁を使って行います。児童生徒たちは、昔から伝わる日本文化は、米藁のリサイクルであることを学びます。
- 『ふるさと牟禮』を発行しましたが、「歴史の道 山陽道を歩く会」の説明をするのに「山陽道」のことが書いてあります。説明をするには『ふるさと牟禮』をみて練習すればよいわけです。
- 手作業であった昔の生活、農作業、きつかったけれどお互い助け合って暮らしたということ、これは子どもたちが現代でも暮らしの中に必要であるということで学び取ってほしいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

- 『ふるさと牟禮』の発行に当たり、「右田毛利氏と牟礼」講師 柴原直樹氏「牟礼の地質地形について」講師 松本浩氏の講演会を開催することができた。松本浩氏には『ふるさと牟禮』に寄稿もしていただきました。今後、牟礼郷土誌同好会の会員も発行した『ふるさと牟禮』を基にますます、牟礼地域の青少年の育成に努めていきたいと思ひます。